

明石支部では、企画を募集しています。文化行事から臨床研究会まで、お気軽に事務局までご連絡ください。

支部が明石市と懇談 こども病院のポアイ移転 小児救急に懸念



要望書を市保険・健康部長に手渡す吉岡支部長(左)

県が正式に決定した県立こども病院のポアイランドの移転問題で、明石支部は3月8日、明石市と懇談し県に対し計画の撤回を申し入れるよう要請した。

支部から、支部長の吉岡巖副理事、副支部長の西山裕康、同理事、支部幹事の辻一城同日、明石市と懇談した。田代修三保険・健康部長と山本徹保険・健康部次長兼地域医療課長が対応した。

西山副支部長は、会員アンケート結果を紹介し、小児救急を市外に依存している市内の医師から不安の声が寄せられていることを説明。辻幹事は、県と神戸市が患者や医療関係者の意見を無視し、強引に移転を進めるのは問題と指摘した。市は、県から説明がなかったとし、小児救急を市外に依存している市として救急の動線が長くなることや災害時の対策についての懸念を県に口頭で伝えると回答した。



多くの医師スタッフが参加した医科会場(上) 分かりやすく歯科改定のポイントを説明する講師陣(下)

は、吉岡巖支部が挨拶と情勢報告を行い、講師は山裕康副支部長務めた。歯科では、原一淳一朗生が挨拶と情勢報告を行い、講師川村雅之、鈴木彦両県協会理事務めた。会場で訴えられた署名にも多くの参加者が応え、医科では39筆、科では23筆が集まった。

「これでは地域医療守れない」

支部は3月22日、診療報酬改定研究会を開催。医科診療所向け研究会には医師やスタッフら174人が参加、歯科向け研究会には62人が参加した。医科で

兵庫 庫医 協 会



No. 256

2012・3・25

投稿歓迎!

兵庫県保険医協会明石支部

支部長 吉岡 巖
神戸市中央区海岸通一丁目二番三十一号
神戸フコク生命海岸通ビル五階

TEL 078-3393-1801(代)
FAX 078-3393-1802

☆協会ホームページ・明石支部→ <http://www.hhk.jp/sibu/akasi/akasi.htm> もぜひご覧ください。

兵庫県保険医協会 明石支部 会員懇談会

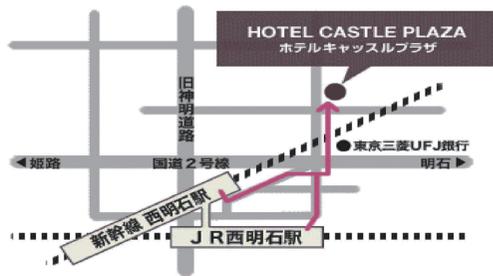
失敗しない採用のポイントと退職時のトラブル解決策

日時 4月21日(土) 午後3時~5時
 場所 西明石ホテルキャッスルプラザ 4F
 講師 桂好志郎氏(社会保険労務士)

参加費無料・テキスト代 1000円(『医院経営と雇用管理 2010』冊子代として。お持ちの先生はご持参いただければ無料です)
 ※終了後、講師を囲んでの懇親会(会費5000円)を開催します。ぜひご参加下さい。

協会明石支部は、上記の通り会員懇談会「失敗しない採用のポイントと退職時のトラブル解決策」を開催します。職員採用時の募集・面接テクニックから職員一人ひとりがモチベーションを維持して働けるための適切な雇用管理、円満な退職に必要な手順まで、クライアントに医療機関を多数抱える経験豊富な社会保険労務士の桂好志郎先生にご講演頂きます。

桂先生の講演は毎回大変わかりやすく有益であると好評です。今回は会員懇談会という形式ですので、講師のレクチャーだけでなく、雇用管理の問題について、ざっくばらんにご質問いただけます。先生方のご参加をお待ちしています。



桂好志郎氏 プロフィール
 桂労務社会保険総合事務所所長。月刊保団連・臨時増刊号「医院経営と雇用管理」全体監修。元大阪労働基準局労働保険事務組合指導員。

お問い合わせは、協会事務局 078-393-1807 (平田・本田) まで

FAX 返信 4月21日明石支部会員懇談会 FAX: 078-393-1802

< >人参加します。テキスト(1000円) 冊

終了後講師を囲んでの懇親会(会費5,000円)に < >人参加します
 地区 () 医療機関名 ()
 ご氏名 < > TEL < >

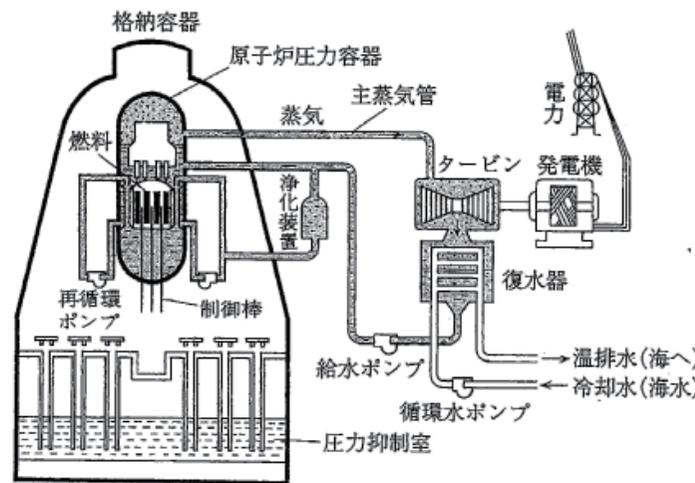
◆桂先生へのご質問や講演希望内容:

第28回支部総会 記念講演詳録③

原発を知る・被ばくを知る

京都府保険医協会 飯田 哲夫 先生

図1 ウランの核分裂概念図



【原子炉の構造】
 このウラン燃料、形はだいたいの直径・高さとも1cmくらいのちっちゃなものです。これをざっと4mぐらい積み上げて、それをジルコニウムという薄い金属で覆います。これが燃料棒1本、これをいくつも束ねて燃料集合体にして、その中に装着するわけです。現在普通の発電量100万kwの原子炉で、だいたい約100トンの燃料が架装されています。ちなみに濃度は違いますけれど、ヒロシマ型原爆はわずか50kgです。

この原子炉には、大き

第28回支部総会での市民公開記念企画「原発を知る・被ばくを知る」の講演録に加筆したものを今後シリーズ掲載。今回は第3回目。

これをまたいくつも、原子炉の中に装着するわけです。現在普通の発電量100万kwの原子炉で、だいたい約100トンの燃料が架装されています。ちなみに濃度は違いますけれど、ヒロシマ型原爆はわずか50kgです。

この原子炉には、大き

分けて、沸騰水型と加圧水型という2タイプがあります。今日は福島原発と同じ沸騰水型で説明します。

みなさんにお配りしました資料の中に、原子炉の模式図があると思います(図1)。それをちょっと見てください。この図、非常にシンプルですね。原子力発電所の中に入られた方はご存じだと思いますが、かなり巨大なものです。格納容器も非常にでかい。そこからいっぱいパイプが出ている。非常に複雑にパイプが何本も走っています。それから、原子炉の中は猛烈な放射能を持っているわけですから、人がとつても入るわけにはいけません。全て計器で状態を見、そして運転する。そのための配線やら何やらが、もうごちゃごちゃというぐらい、いっぱいあります。ですから、この模式図のような単純なものではありません。私は最初これを見たときに、こんなでかいもので、こんな

複雑なものが、ずっと故障しないで動くなんてあり得ないと、本当に見た瞬間にそう思いました。実際、しょっちゅう故障しているわけですけども。ですから、この図を見るとときに、その辺のことを誤解されないようにして下し。

この沸騰水型は、その格納容器の中に、再循環ポンプっていうのがぶら下がったように入っていて、振動に弱いといわれています。また図の圧力容器の下の方に核分裂を制御する制御棒というのがありますが、これも、これは下から上にあげて制御します。つまり重力に逆らって上にあげなくてはならないという欠点を持っています。また原子炉には貫通部があつて、そこからパイプだとかいろいろなものが出てくる。そのところはシリコンゴムだとか、エポキシ樹脂でシールをしている。これも弱いところですよ。